

東亞天文協會

會 報

○四月例会——去る四月二十三日、例によつて、花山天文臺にて山本會長の「世界の天文臺」の題下に、近來興味ある講演あり。當日は快晴、近郊は櫻花満開花山へピクニック旁々と洒落た聴講者を始め、大學の新人學生連も多數詰めかけ、天文臺の圖書兼談話室は定刻を過ぎる頃は満員の盛況、幻燈寫真に一同異郷の天文臺氣分を満喫して、午後四時閉會。

○山本會長の出發——既報太平洋學術會議へ列席の山本會長は五月十二日京都發東上、横濱よりプレジデント、クリーブランド號に乗込み、十三日午後二時一路ロサンゼルスへ向け渡米の途に着かれた。

五藤齋三氏(東京)名譽會員に推薦さる

多年、本會の爲め、將又天體望遠鏡製作界のため、熱心に盡力して來られた五藤齋三氏は、今般本會へ金壹百五拾圓也を寄贈せられた爲め、本會々則第七條の規定により名譽會員に推薦せられた。

○次號は「太陽課の紹介及び觀測研究號」である。御期待を請ふ!!

通 信

前略

凡そ天界記事中二月號の國友能當並びに岩橋善兵衛の記事程興味をひいたものは御座いませんでした。小生の淺學を暴露するならば徳川期に於ける本邦科學者の隨一としては平賀源内を知るのみ、而も概括的なる知識を有するに過ぎなかつたのです。然るに尙すぐれたる科學的知識を有する古人を知り甚だ興味をそゝられたものがあります。

此處に希望を述べるを許されるならば、何人か斯うした本邦科學史的研究を體系づけ、之を公刊せられたら獨り小生のみならず一般の期待に喜びを與へるものなる事を確信するものです、山本博士をわづらはして單行本として或はパンフレット體裁のもので結構ですが、之を廣く公表せられる所あれば甚だ喜ばしい事と存じます。

本月號の天界記事では何となく物足りないのを感じます。詳細なる發表を期待して筆をおきます。

二月十六日

熊 本 山 口 浩 太 郎